



お知らせ

記者発表資料	平成25年 9月 6日
配布日	

資料提供先：岡山県政記者会
岡山市記者クラブ
倉敷市記者クラブ

平成 25 年9月4日台風 17 号における出水対応について (吉井川、旭川、高梁川)

前線の停滞により、3日11時頃から降り始めた雨は吉井川、旭川、高梁川の各流域の雨量観測所で100mmを越え、河川水位も上昇しました。

事務所体制も4日6時10分に注意体制とし、その後、小田川の矢掛水位観測所の水位がはん濫注意水位を越える恐れがあったため、同日9時50分に警戒体制へ切り替え、さらに矢掛水位がはん濫危険水位を越えた同日11時10分に非常体制としました。各河川の雨量、水位は次のとおりでした。

【吉井川】

- ・ 降り始めからの総雨量は、津山で134mmを記録、吉井川の津瀬水位観測所でははん濫注意水位 (6.40m) を越え、8.11mに達しました。
- ・ 支川小野田川の水位上昇により民家側の雨水が小野田川に流れ出なくなったため、赤磐市からの要請により徳富地区にポンプ車を出動させ、4日の10:30～23:30の間ポンプ排水を行いました。

【旭川】

- ・ 降り始めからの総雨量は、加茂川で149mmを記録、旭川の三野水位観測所でははん濫注意水位 (6.80m) を越える6.85mに達し、洪水は越流堤を越えて百間川に流れ込みました。

【高梁川】

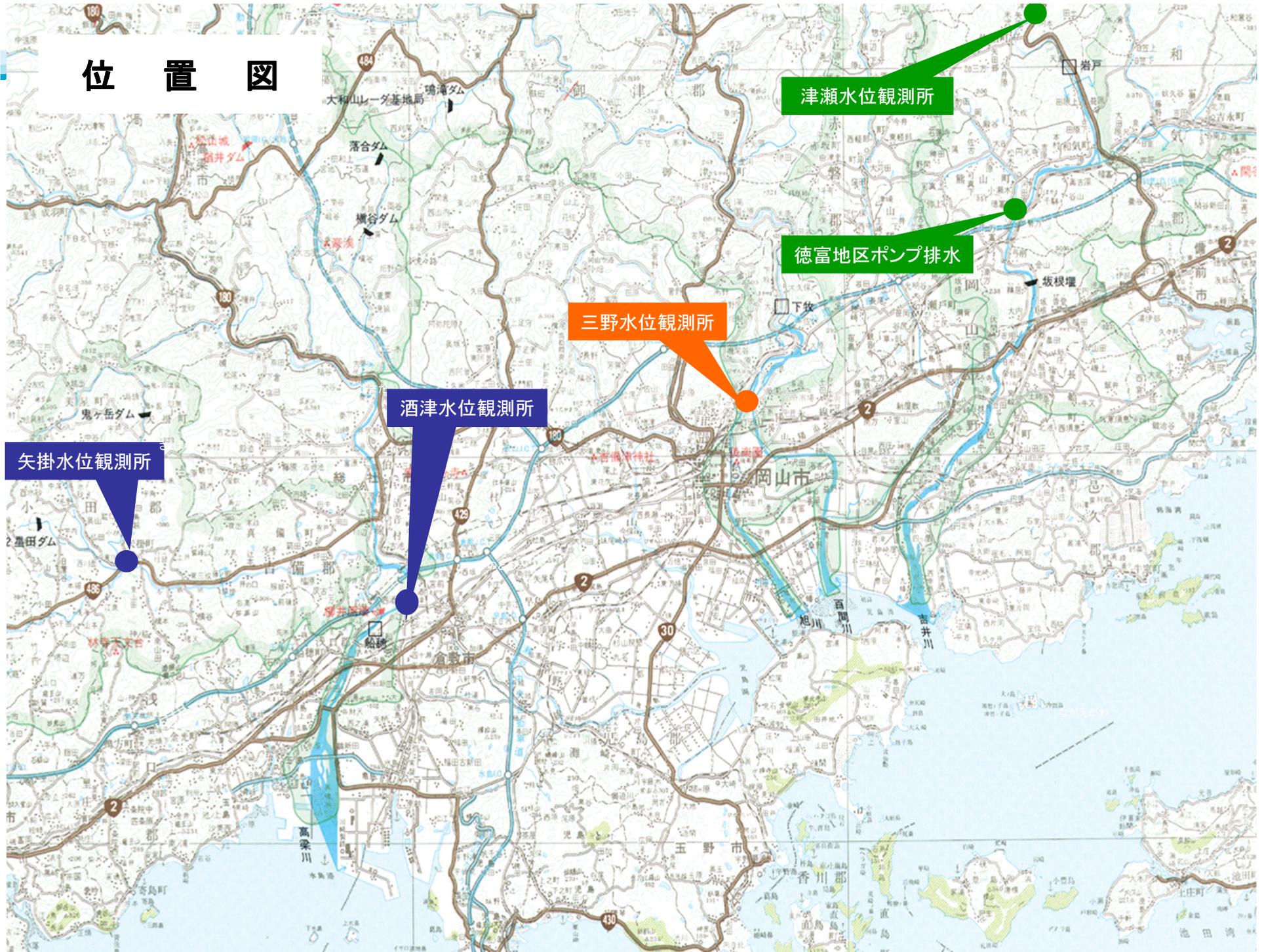
- ・ 降り始めからの総雨量は、新見124mm、井原110mmを記録、支川小田川の矢掛水位観測所でははん濫危険水位 (4.50m) を越え、4.66mに達しました。高梁川酒津水位観測所でははん濫注意水位 (8.70m) を越え、9.46mに達しました。
- ・ 小田川では高梁川の水位の高い状況が続いたため、高水敷が冠水して水位がなかなか低下しませんでした。

問い合わせ先 国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所
電話 086-223-5101

【担当】

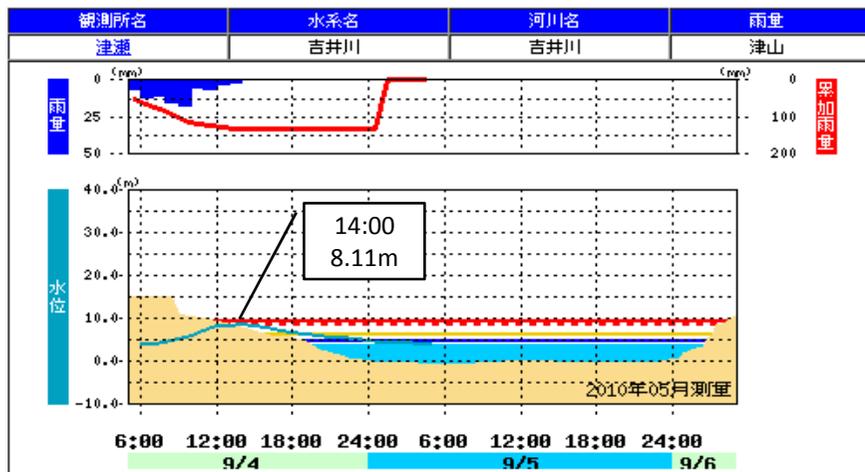
副所長 (調査) 川島 明昌 (内線205)
河川環境課長 安達 淳 (内線361)

位置図

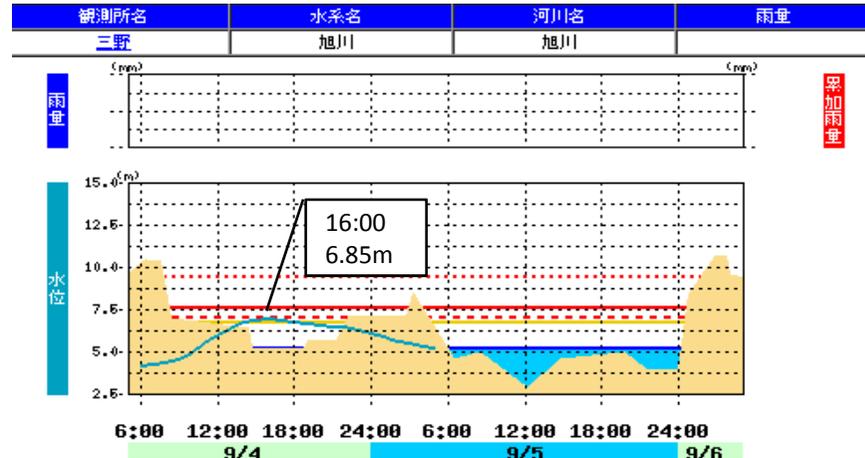


雨量・水位グラフ

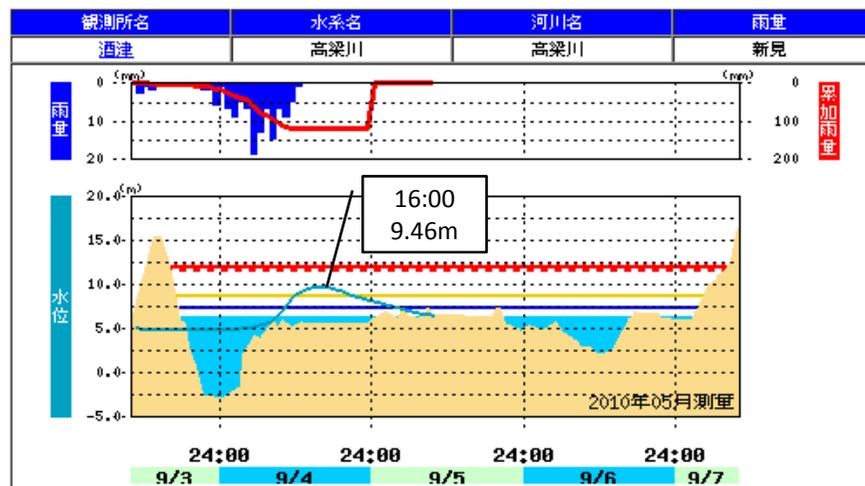
津瀬(吉井川)



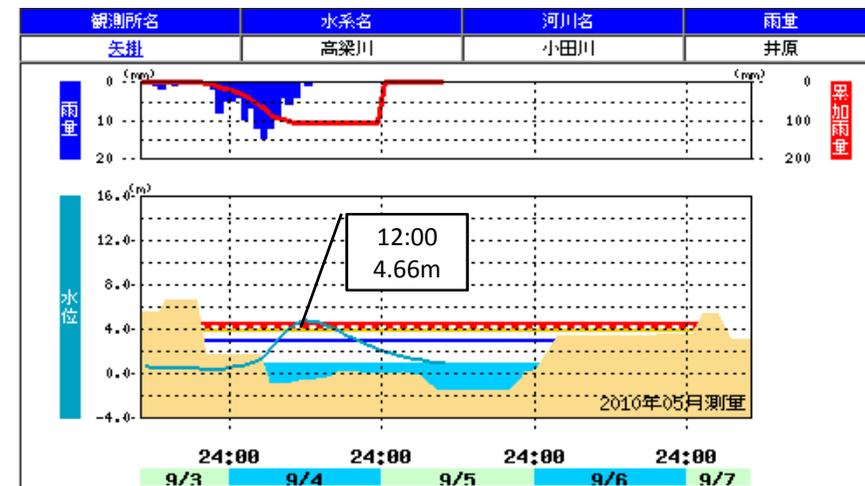
三野(旭川)



酒津(高梁川)



矢掛(小田川)



— 水防団待機水位
 — はん濫注意水位
 — 避難判断水位
 — はん濫危険水位
 — 計画高水位

出水状況【吉井川】



和気橋



坂根堰全開状況



ポンプ排水状況(徳富地区)



ポンプ排水状況(徳富地区)

出水状況【旭川】



クラレ堰



後楽園



後楽園派川 ー下流方向を望むー



旭川から百間川への流入状況

出水状況【高梁川】



湛井堰



河川敷冠水(総社市井尻野)



箭田橋(小田川)



八高堰量水標(小田川)

事務所水防体制状況



水位データ表示モニター



体制状況(モニター情報確認)



体制状況(情報伝達、データ整理など)

監視カメラ画像



高梁川21k左岸 湛井堰



小田川6k100左岸 八高堰



吉井川9k800左岸 干田川排水樋門

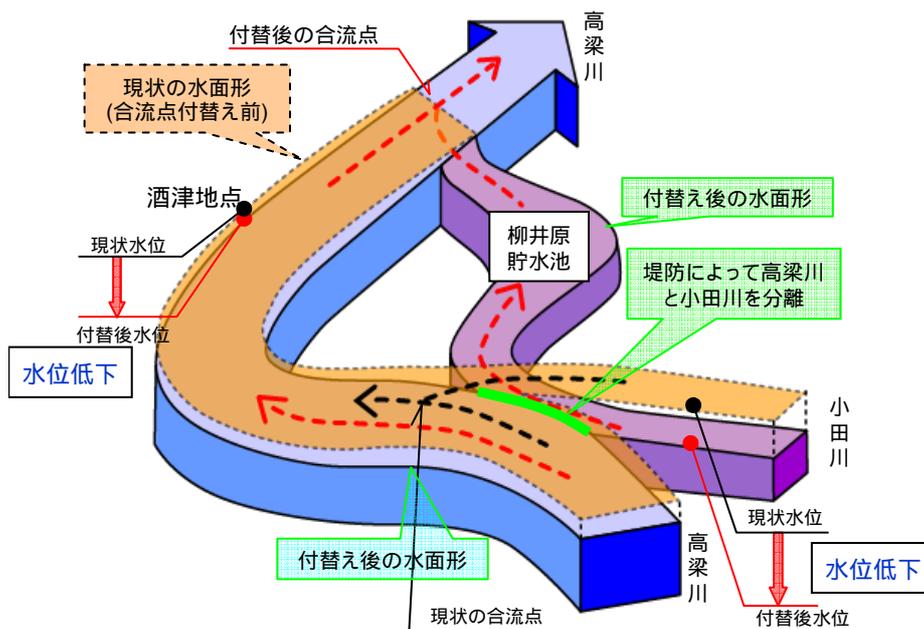
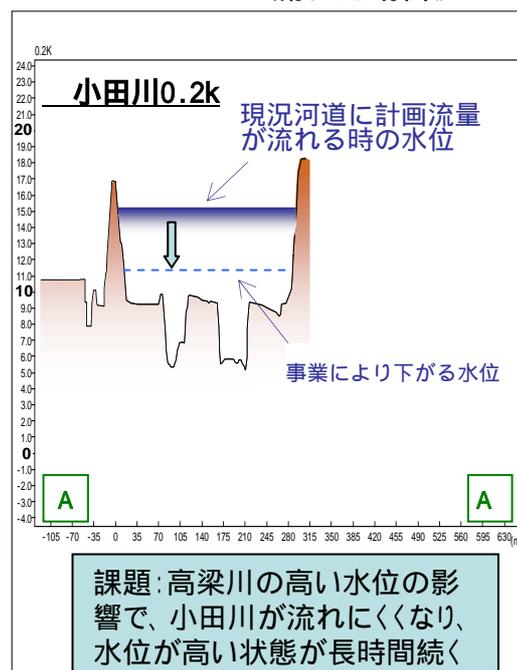
(参考資料)小田川付替事業について

高梁川と小田川の合流点位置を下流に付替え、洪水が流れてきても破堤、欠壊などの危険度を低下させます。

- 洪水時に高梁川の水位の影響が少なくなり、小田川の水位が低下
洪水による破堤、欠壊などの危険度を低下
- 酒津地点に小田川の流量を流さないで、倉敷市街地の安全度が向上



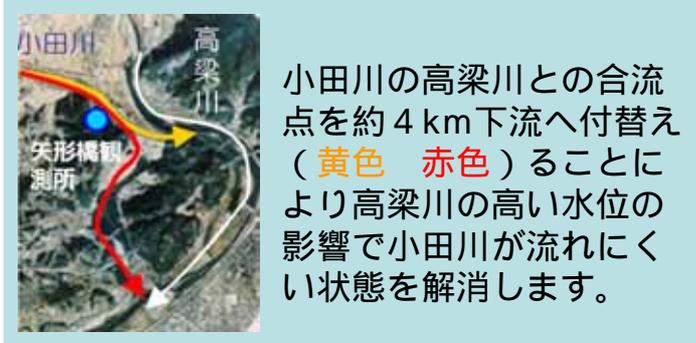
《現況河道にS47洪水流量が流れた場合》



小田川合流点付替えによる水位低下効果のイメージ

洪水と小田川付替事業を実施した場合の効果

平成25年9月4日洪水において、小田川付替事業を実施していた場合には、洪水時における小田川の高い水位の状態が解消され、**水位が低下**することで、堤防にかかる負荷が減ることになります。

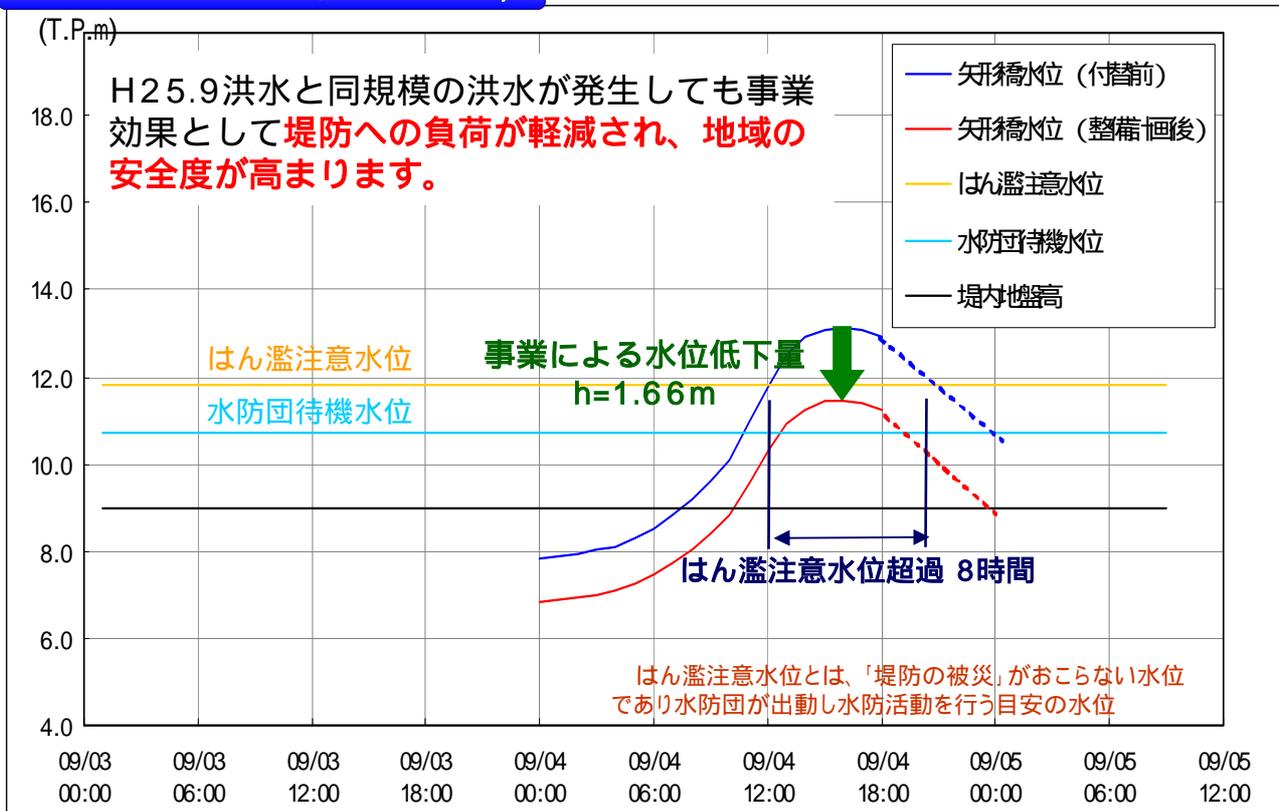


河道付替えによる効果(矢形橋水位観測地点)

対象洪水	ピークの水位 (m)		水位低下量 (m)
	河道付替前	河道付替後	
H25年9月4日	13.12	11.46	1.66

水防活動短縮時間(h)	8
-------------	----------

付替え事業の効果(H25.9.4洪水)



H25.9小田川出水状況

